

長期ステロイド使用後の全身浸出症状を経て半袖で学生生活を送れるようになった青年期アトピーの経過 (20 歳 学生)

症例 ID：001-20-SS | 記録日：2016 年 10 月 10 日

1. 診断・治療前経過

小児期からアトピーがあり、小学校 6 年生頃から皮膚科でローションやステロイドを使用しました。高校期に皮膚科通院をやめましたが、症状は続きました。2015 年 12 月、家族の勧めで治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小学校期からローションとステロイド外用薬を使用しました。接骨院でも外用薬を塗布された経過があります。
製品名	不明です。
強度	開始時は強い外用薬と説明されましたが、詳細は不明です。
使用期間	小学校期から高校期まで断続的に使用しました。
中止時期	高校期です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学校 6 年生頃～	外用継続	受験期の負担とともに全身のかゆみが強くなり、外用治療を続けました。
2015 年 12 月	治療開始	煎じ薬、抗ウイルス薬、漢方入浴、外用処置を開始しました。
2016 年 1 月頃	症状の強い時期	皮膚が赤くなり、広範囲から浸出液が出て、衣類と寝具が汚れました。
治療初期約 6 か月	生活への影響	全身をガーゼで保護し、授業や実習では長袖着用の配慮が必要でした。
約 6 か月後	大きな変化	浸出液が出なくなり、ガーゼや手ぬぐいが不要になりました。
2016 年 10 月	経過中	半袖で過ごせるまで改善し、学生生活を続けていました。

4. ピーク時期

ピークは、2016 年 1～2 月頃に全身の浸出液、落屑、痛み、強いかゆみが重なり、毎日広範囲をガーゼで保護していた時期です。

5. 困りごと

- 浸出液と外用薬で衣類、寝具、ガーゼが濡れ、毎日の洗濯が必要でした。
- 衣類が触れることや空気に触れることでも痛みがありました。
- 授業や実習で長袖着用の配慮が必要でした。

6. 経過のまとめ

治療開始約 6 か月後には浸出液がみられなくなり、ガーゼによる保護も不要となりました。
2016 年 10 月時点では、かゆみは少し残るものの、半袖で学生生活を送れる状態となっていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。